大手銀行・地域銀行
国内LBOローンに関するアンケート調査結果

Ⅰ	公表の趣旨	P. 1
Ⅱ	アンケート結果（大手銀行）	P. 3
Ⅲ	アンケート結果（地域銀行）	P.10

2024年７月25日

金融庁

Ⅰ 公表の趣旨

■ 近年、国内においてM&Aや事業承継等が増加する中、大手銀行及び地域銀行は、それを支えるLBOローンに積極的に取組む先が増加している。

■ 一方、LBOローンは、買収対象会社の負債割合が増加するなど、一般的には通常のコーポレートローンと比較して信用リスクが高くなるとされている。このため、各行では、LBOローンへの取組み方針や残高・収益目標の策定においては自身の経営体力を踏まえ設定する必要があるほか、事業戦略に見合う入口審査や期中管理などのリスク管理態勢を整備し、適切に運用していくことが重要である。

■ また、全国銀行協会は、LBOローン市場の健全な発展に向けた業界横断的な検討を行っている。金融庁でも、LBOローンの供与を通じて事業再生等の社会的ニーズに応えるとともに、企業価値向上と競争力強化に資すること、さらに多様な投資家層の拡大は、一部の銀行に集中するリスクの分散にも資することから、同市場が健全に発展していくことが望ましいと考えている。

■ こうした状況を踏まえ、金融庁は、大手銀行及び地域銀行のLBOローンにかかる取組み状況・管理態勢等を広く確認するため、簡易なアンケート調査を実施した。

■ 今回のアンケート調査結果は、LBOローンに取組んでいる金融機関はもとより、今後の取組みを検討している金融機関の参考になる内容が含まれていることから、公表するものである。

■ 金融庁は、今回のアンケート調査結果も踏まえつつ、引き続きLBOローンにかかるリスク管理態勢の高度化を促していく。

■アンケート調査結果の概要

項目	内容	
対象先	大手銀行（９行）	地域銀行（100行）
調査結果	①LBOローンへの取組み、LBOローン残高・要注意先以下比率の推移 メザニンへの取組み、メザニン残高の推移	①LBOローンへの取組み、LBOローン残高・要注意先以下比率の推移 メザニンへの取組み、メザニン残高の推移
	②取組み姿勢（残高の積増し、アレンジ・参加、地域）	②取組み姿勢（残高の積増し、アレンジ・参加、地域）
	③リスク管理（規程・マニュアルの整備状況、新規採上基準、ポートフォリオ報告）	③リスク管理（規程・マニュアルの整備状況、新規採上基準、ポートフォリオ報告、リスク・リターン目線、1件当たり引受金額、与信限度額基準の超過）
	④体制整備の状況（フロント部門・審査部門の準備状況）	④体制整備の状況（フロント部門・審査部門の準備状況）
	⑤投資家層の拡大に向けた取組み	⑤その他（自由記述での回答）
	⑥その他（自由記述での回答）	

※銀行からの報告ベースで集計

Ⅰ 用語/定義

■本報告書で用いる用語は、別段の記載のない限り、以下のとおりとする

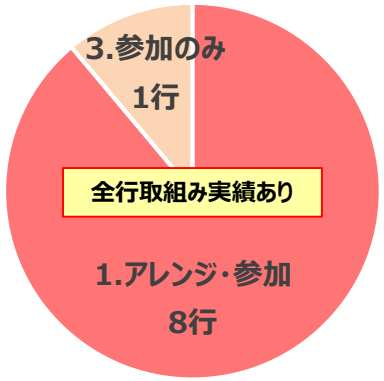
用語	定義
LBOローン	LBOとはLeveraged Buy Outの略で、買収対象会社の資産及びキャッシュフローを担保に、銀行借入等により資金を調達し、会社を買収することをいい、LBOローンとは当該借入のことをいう。なお、当アンケート調査における「国内LBO」は、スポンサーとしてPEファンドが関与している国内案件を対象とする。
PEファンド	プライベート・エクイティ・ファンドの略で、当アンケート調査における買収会社。
大手銀行	三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、三井住友信託銀行、りそな銀行、SBI新生銀行、あおぞら銀行、農林中央金庫、日本政策投資銀行の合計９行。
地域銀行	地方銀行（全国地方銀行協会加盟銀行）、第二地方銀行（第二地方銀行協会加盟銀行）、埼玉りそな銀行の合計100行。
EBITDA	Earnings before Interest, Taxes, Depreciation and Amortizationの略で、利払前・税引前・償却前利益をいう。
レバレッジ比率	有利子負債をEBITDAで割った値。
アレンジ案件	LBOローンのストラクチャリング、シンジケーション等のアレンジメント業務を行い組成する案件。
参加案件	組成されたLBOローンに参加する案件。
リキャピタリゼーション	買収対象会社の収益性が向上し、返済余力が生じた場合等において、スポンサーが投資を一部回収すること。
HoldCoローン	持株会社へのローン。買収SPC（対象会社）のレンダーとの関係で構造上、劣後するための仕組み。

Ⅱ 大手銀行のアンケート結果

Ⅱ 大手銀行アンケート結果①（取組み実績）

- 大手銀行すべてにおいて、LBOローンの取組み実績があると回答した。うち8行はアレンジ実績があると回答した**<図表１>**。
- LBOローン残高は19年3月末の約2.6兆円から23年9月末は約6.6兆円に増加した。うち3メガバンクで約80%を占めた。債務者区分が要注意先以下の比率は一時期に比べ減少した(約11%)**<図表２>**。
- 大手銀行のうち、６行はメザニンへの取組み実績があると回答した**<図表３>**。
- メザニン残高は19年3月末の約80億円から23年9月末は約3,800億円に増加も、LBOローン全体(約6.6兆円)に占める割合は高くない(約６%)**<図表４>**。

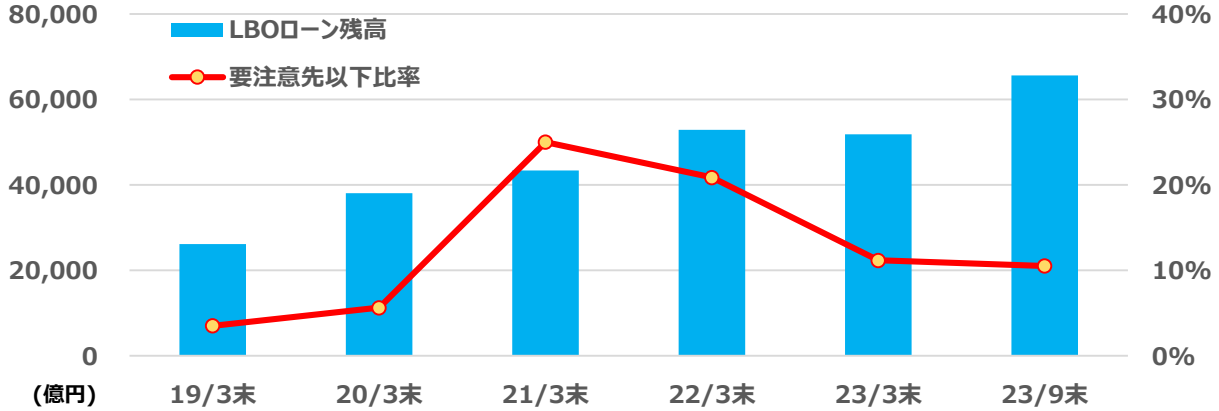
<図表１>LBOローンへの取組み（アレンジ・参加）



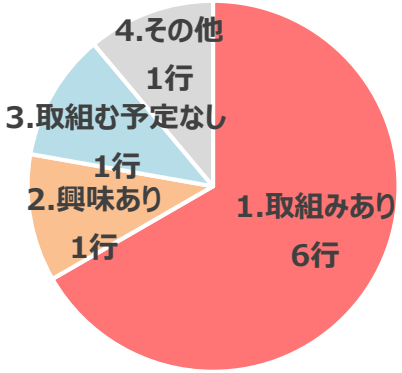
【選択肢】
1.アレンジ・参加ともに実績がある
2.アレンジはあるが参加実績はない
3.参加はあるがアレンジ実績はない
4.アレンジ・参加ともに実績がない

<図表２>LBOローン残高・要注意先以下比率の推移

※一部の銀行に回答が得られなかった項目あり



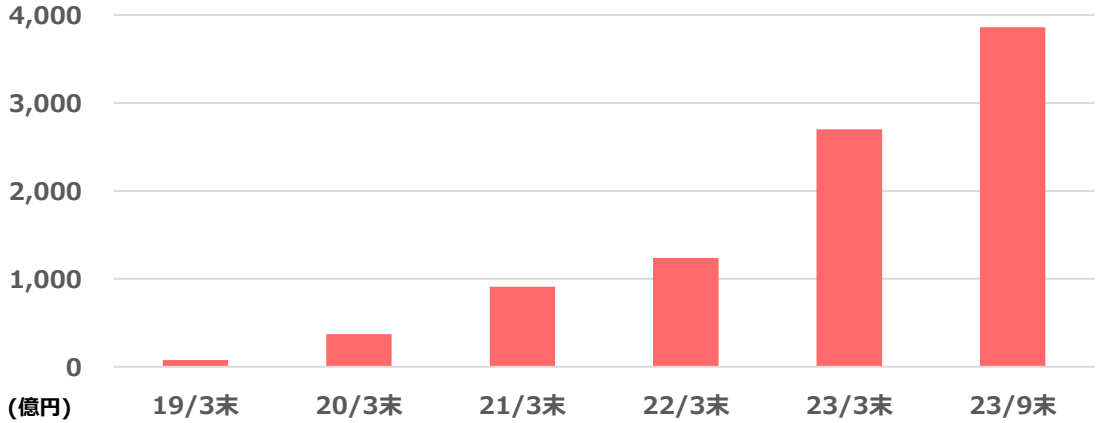
<図表３>メザニンへの取組み



【選択肢】
1.シニア以外（メザニン・HoldCo）にも取り組んでいる
2.シニアしか取り組んでいないが、メザニン・HoldCoにも興味がある
3.シニアしか取り組んでおらず今後も取り組む予定はない

<図表４>メザニン残高の推移

※一部の銀行に回答が得られなかった項目あり



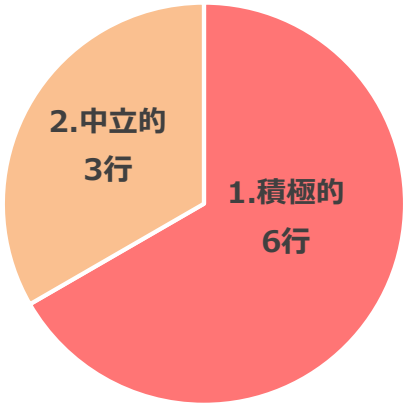
Ⅱ 大手銀行アンケート結果②（取組み姿勢）

■ 大手銀行のうち、6行はLBOローン残高の積増しに積極的と回答した**<図表5>**。

■ また、8行はアレンジ案件に積極的と回答した**<図表6>**。この8行のうち3行は参加案件にも積極的と回答した**<図表７>**。

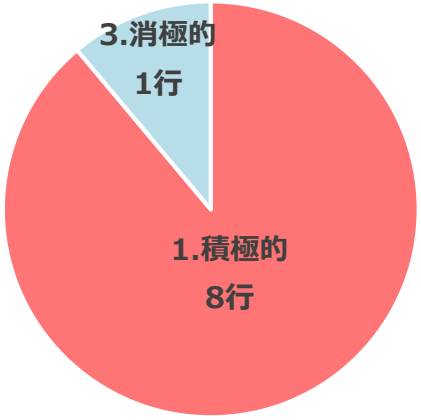
■ ４行は海外にも積極的と回答した。一方、3行は国内のみしか取り組んでおらず、今後も国内しか取り組まないと回答した**<図表8>**。

<図表５>取組み姿勢（残高の積増し）



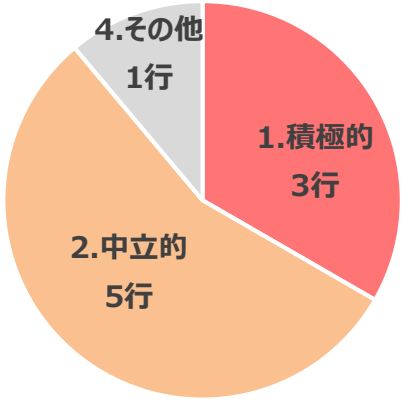
【選択肢】
1．積極的（残高を増やしたい）
2．中立的（残高は維持・横ばい）
3．消極的（残高を減らしたい 又は残高なし）

<図表６>取組み姿勢（アレンジ）



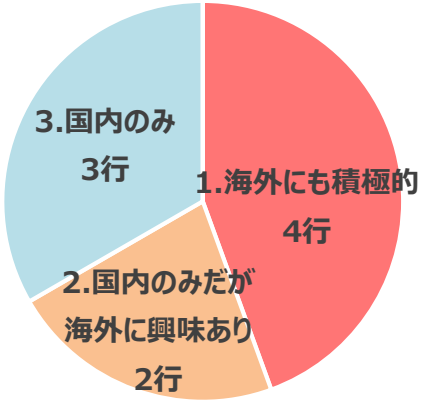
【選択肢】
1．積極的（今後も積極的に取り組んでいきたい）
2．中立的（良い案件があれば取り組んでいきたい）
3．消極的（現時点で取り組む予定はない）

<図表７>取組み姿勢（参加）



【選択肢】
1．積極的（今後も積極的に取り組んでいきたい）
2．中立的（良い案件があれば取り組んでいきたい）
3．消極的（現時点で取り組む予定はない）

<図表８>取組み地域



【選択肢】
1．海外案件にも積極的に取り組んでいる
2．国内案件しか取り組んでいないが、海外案件にも興味がある
3．国内案件しか取り組んでおらず、今後も国内しか取り組まない

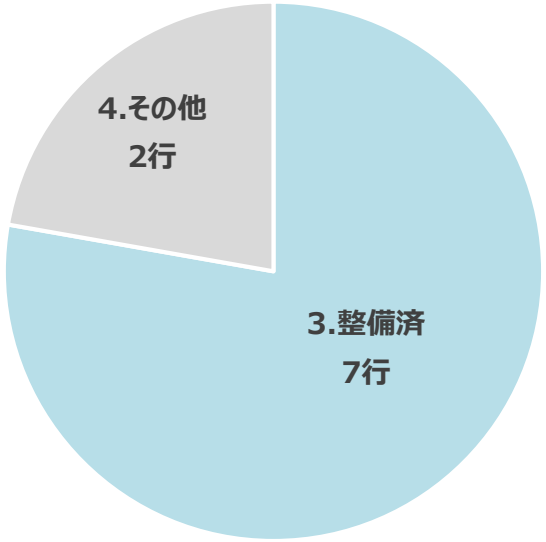
Ⅱ 大手銀行アンケート結果③（リスク管理）

■ 大手銀行のうち、7行はLBOローンに関する規程・マニュアルを整備済と回答した。その他と回答した2行のうち1行は、通常の与信規程・マニュアルにLBOローンの内容を包含していると回答した**<図表９>**。

■ 6行は定量的な新規採上基準があると回答した。その他と回答した2行のうち1行は、レバレッジ比率などについて一定の水準を超える案件において営業・審査の役員を交えて協議する場を設定していると回答した**<図表10>**。

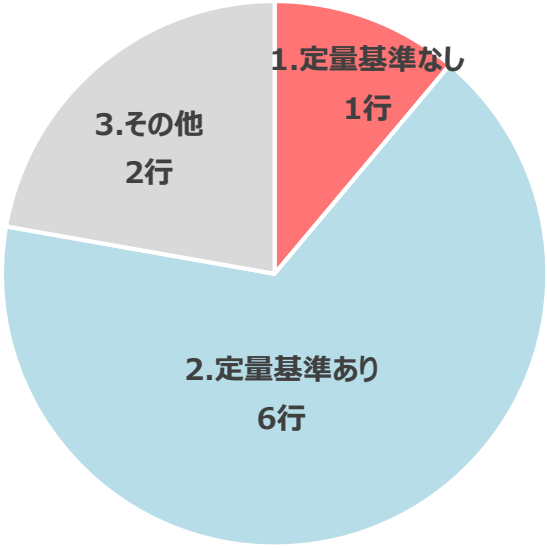
■ 大手銀行すべてにおいて、LBO関連ポートフォリオを定期的に会議体等へ報告していると回答した**<図表11>**。

<図表９>規程・マニュアルの整備状況



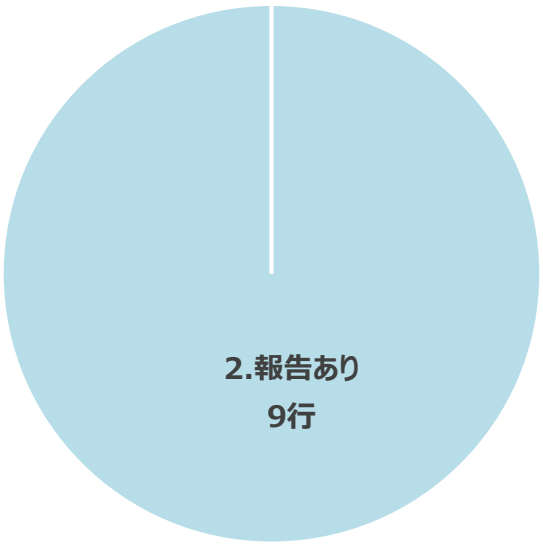
【選択肢】
1．規程・マニュアルはない
2．規程・マニュアルは整備中
3．規程・マニュアルは整備済

<図表10>新規採上基準



【選択肢】
1．定量的な採上基準はない
2．定量的な採上基準がある

<図表11>ポートフォリオ報告



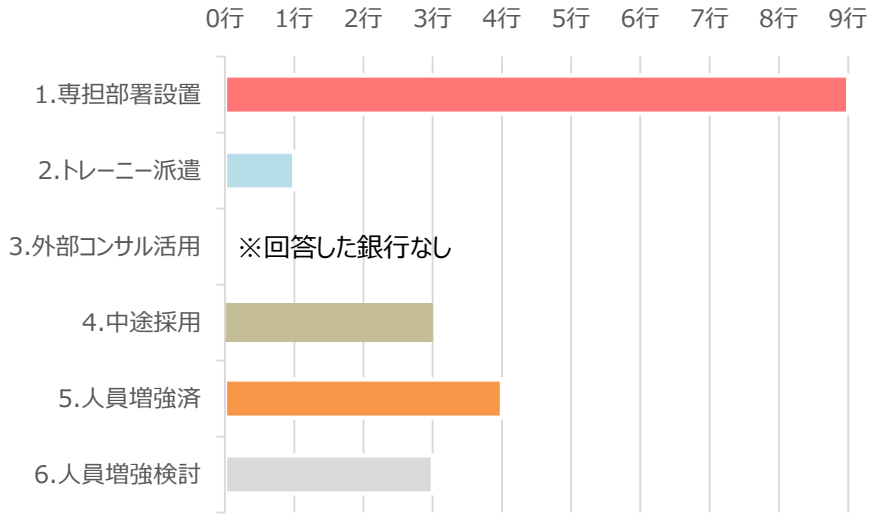
【選択肢】
1．報告等は実施していない
2．定期的に報告を実施

Ⅱ 大手銀行アンケート結果④（体制整備の状況）

■ 大手銀行すべてにおいて、フロント部門に専担部署を設置していると回答した。また、7行は人員を増強済又は検討中と回答した**<図表12>**。

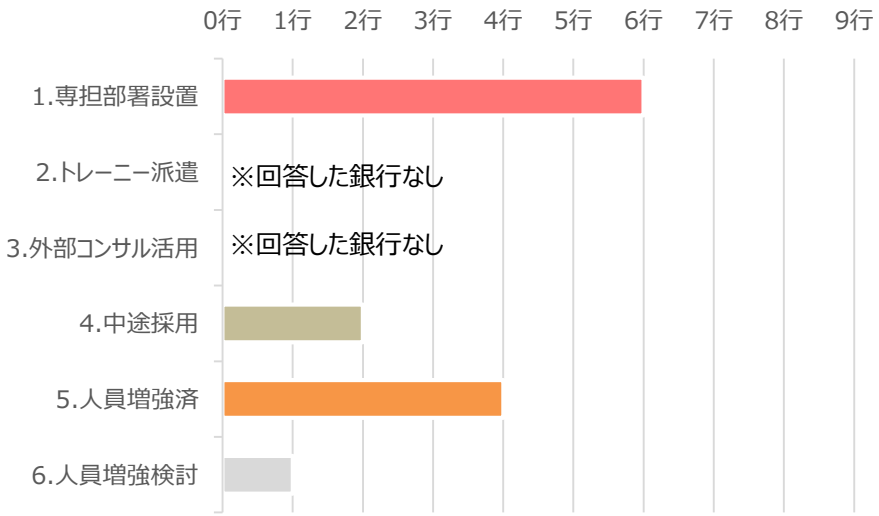
■ 6行は審査部門に専担部署を設置していると回答した。また、1行は専担部署を設置していないものの、LBOローンに知見のある審査担当職員も含め、複数名で検討する体制を構築していると回答した**<図表13>**。

<図表12>フロント部門の準備状況



【選択肢】※複数回答可
1．専担部署を作って取り組んでいる
2．他行・他社(ファンド等)にトレーニーを出して知見の習得に努めている
3．外部コンサルを活用して体制整備を進めている
4．経験のある中途採用者を採用している
5．人員の増強を行った
6．人員の増強を検討している

<図表13>審査部門の準備状況



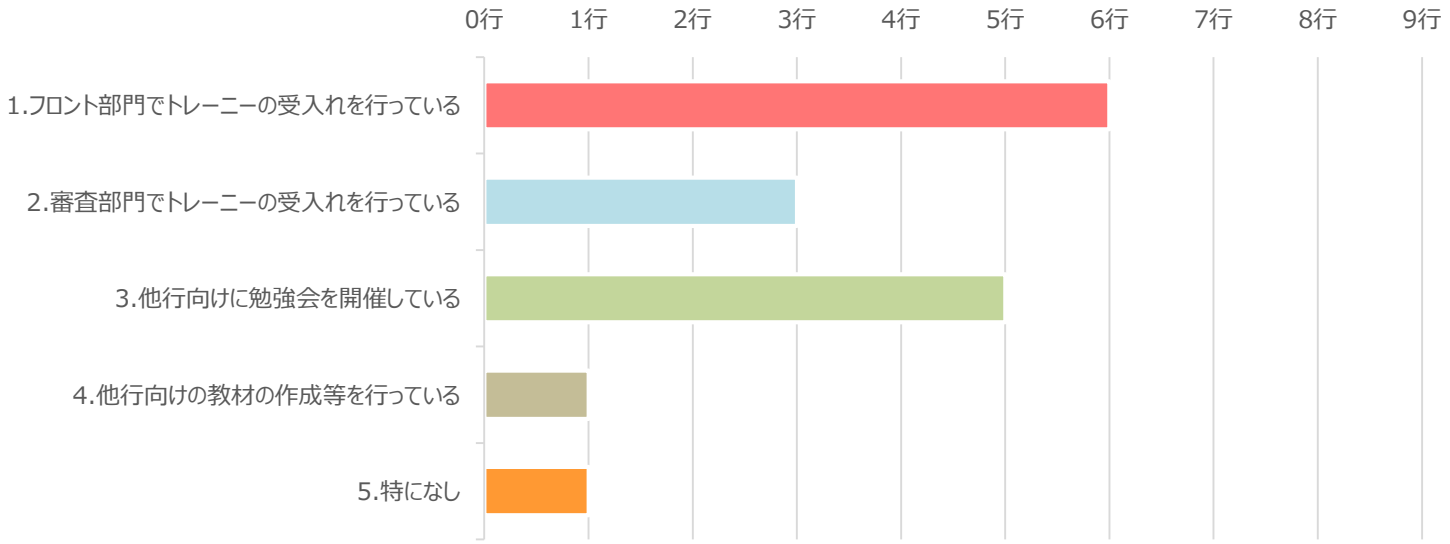
【選択肢】※複数回答可
1．専担部署を作って取り組んでいる
2．大手行にトレーニーを出して知見の習得に努めている
3．外部コンサルを活用して体制整備を進めている
4．経験のある中途採用者を採用している
5．人員の増強を行った
6．人員の増強を検討している

Ⅱ 大手銀行アンケート結果⑤（投資家層の拡大に向けた取組み）

■ アレンジ実績があると回答した大手銀行(8行)すべてにおいて、投資家層の拡大に向けた取組みを実施していると回答した。

■ 具体的には、フロント部門及び審査部門において、地銀等からのトレーニー受入れや、地銀等向けの勉強会の開催等を実施し、投資家層の拡大に向け、LBOローンの知見・経験を広める活動を行っていると回答した。その他の取組みとして1行は、地銀等と個別に面談や情報交換を実施していると回答した。

<図表14>投資家層の拡大に向けた取組み



【選択肢】※複数回答可
1．フロント部門での他行からのトレーニーの受入れを行っている
2．審査部門で他行からのトレーニーの受入れを行っている
3．他行向けに勉強会を開催している
4．他行向けの教材の作成等を行っている
5．特になし

Ⅱ 大手銀行アンケート結果⑥（その他）

※自由記述での回答

項目	主な回答内容
①フロント業務における課題・問題意識	■ 人材の確保、専門性の向上※大半の銀行が回答した ■ 業務量の増加、短い案件検討期間 ■ 日本のLBOローン市場は３メガバンクを中心としたマーケットであり、機関投資家を中心に新たな投資家の呼び込みのため、以下が必要と認識 ✓ セカンダリーマーケットの創設 ✓ マーケット情報の可視化 ✓ リスク・リターンの向上 ✓ 欧米のように業界全体を規律するガイドラインの規定　等
②審査業務における課題・問題意識	■ 人材の確保、専門性の向上 ■ 短い案件検討期間 ■ のれんの減損リスクに対する評価の妥当性 ■ 高いレバレッジや緩いコベナンツを求められ、適切な融資規律が働いていない ■ 財務コベナンツ以外にも、破綻に至る予兆を事前に察知する指標等が必要 ■ ストレス計画の検証手法および期中管理態勢の高度化が必要 ■ 契約締結前に経営者インタビューの機会がなく、PEファンドが考えている経営方針や危機対応方針の実現性を対象会社に直接確認できない ■ 十分な企業価値向上が認められない案件に対するリキャピタリゼーションやファンドからファンドへの売却案件が増加　等

Ⅲ 地域銀行のアンケート結果

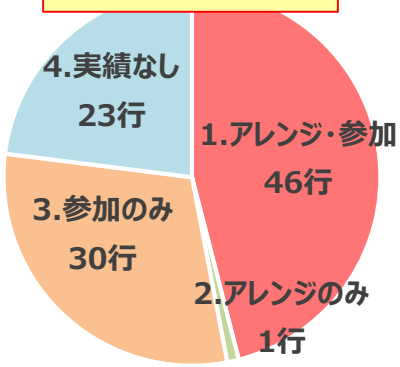
Ⅲ 地域銀行アンケート結果①（取組み実績）

- 地域銀行のうち、77行はLBOローンの取組み実績があると回答した。うち47行はアレンジ実績があると回答した**<図表1>**。
- LBOローン残高は19年3月末の2,300億円から23年9月末は約1.4兆円に増加した。33行は残高100億円以上となった。債務者区分が要注意先以下の比率は残高の大幅な増加に伴い低下した(約10%)**<図表2>**。
- 15行はメザニンへの取組み実績があると回答した。また、28行は取組み実績はないものの、興味があると回答した**<図表3>**。
- メザニン残高は19年3月末の約50億円から23年9月末は約1,700億円に増加した。ただし、メザニン残高は上位3行で90%以上占めた**<図表4>**。

<図表１>LBOローンへの取組み（アレンジ・参加）

取組み実績あり：77行

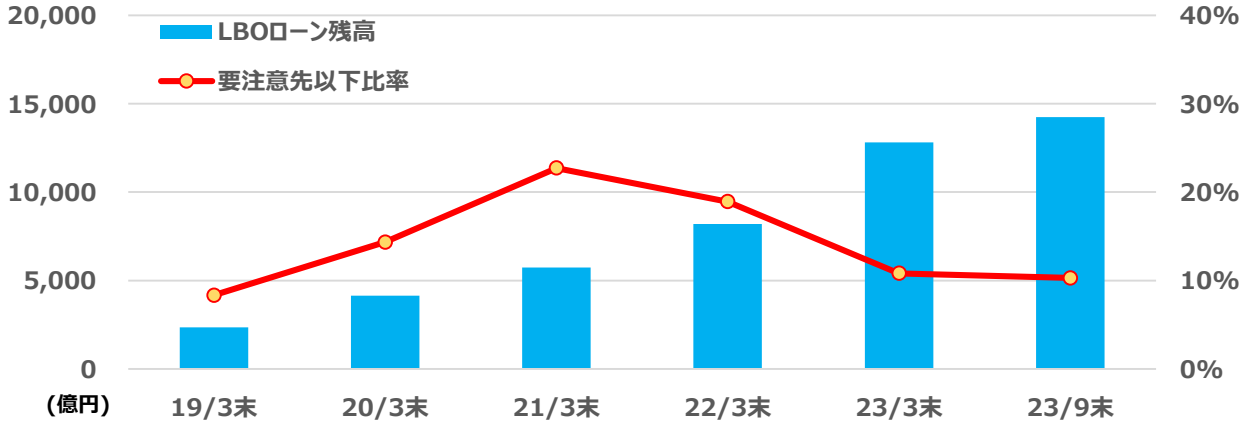
※全地域銀行(100行)の回答



【選択肢】
1.アレンジ・参加ともに実績がある
2.アレンジはあるが参加実績はない
3.参加はあるがアレンジ実績はない
4.アレンジ・参加ともに実績がない

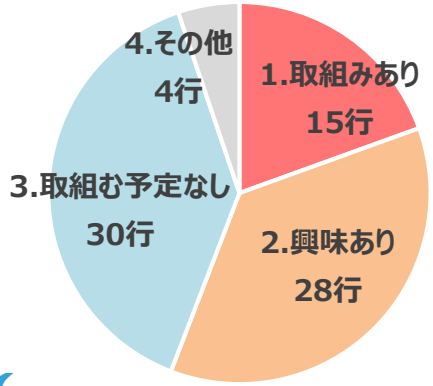
<図表２>LBOローン残高・要注意先以下比率の推移

※一部の銀行に回答が得られなかった項目あり



<図表３>メザニンへの取組み

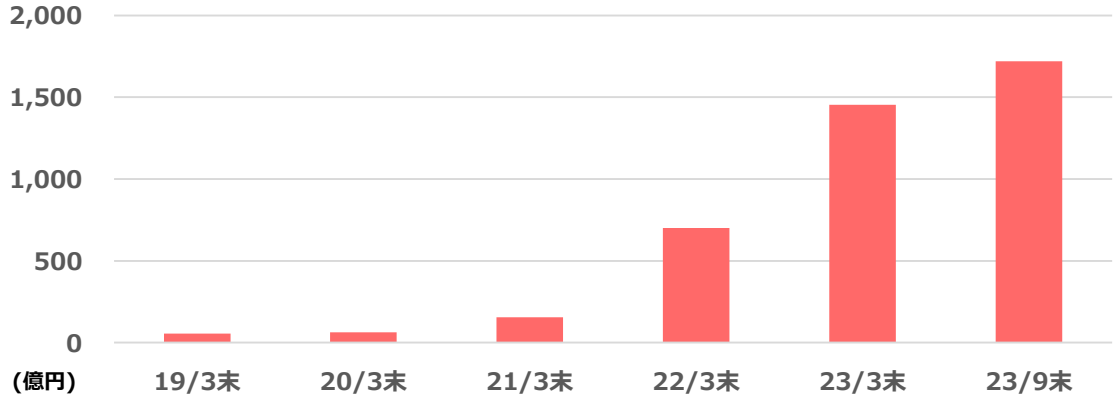
※取組み実績ありの銀行(77行)の回答



【選択肢】
1.シニア以外（メザニン・HoldCo）にも取り組んでいる
2.シニアしか取り組んでいないが、メザニン・HoldCoにも興味がある
3.シニアしか取り組んでおらず今後も取り組む予定はない

<図表４>メザニン残高の推移

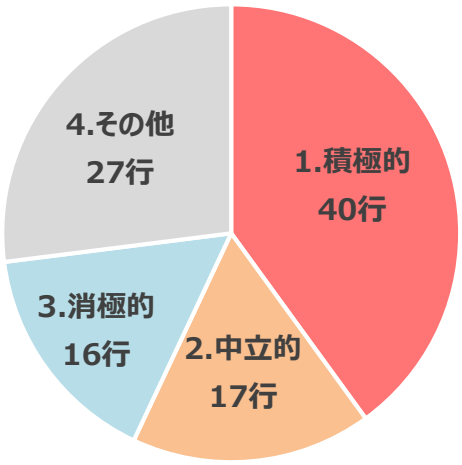
※一部の銀行に回答が得られなかった項目あり



Ⅲ 地域銀行アンケート結果②（取組み姿勢）

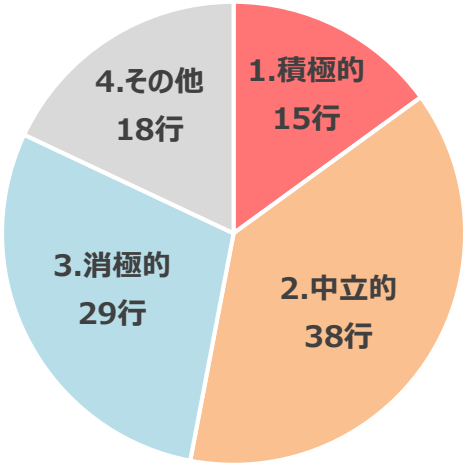
- 地域銀行のうち、40行はLBOローン残高の積増しに積極的と回答した。その他と回答した27行のうち、5行は取組方針を設定していないと回答した**<図表5>**。
- 15行はアレンジ案件に積極的と回答し、38行は中立的と回答した。一方、その他と回答した18行のうち、3行は取組みたいがノウハウがないと回答した**<図表6>**。
- 9行は参加案件に積極的と回答し、68行は中立的と回答した。中立的と回答した68行のうち、5行は金利条件が比較的良好な大型案件などの良い案件を選別の上で取組むと回答した**<図表7>** 。
- LBOローンの取組み実績があると回答した77行のうち、52行は地元のみ又は地元優先と回答した。一方、14行は地元以外にも積極的に取り組むと回答した。その他と回答した11行のうち、1行は出資しているPEファンドの案件を中心に取り組むと回答した**<図表8>**。

<図表５>取組み姿勢(残高の積増し)



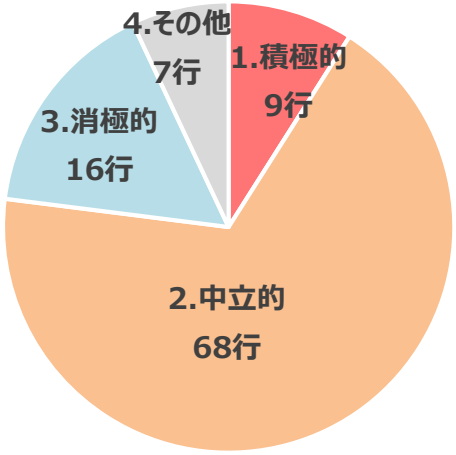
【選択肢】
1．積極的（残高を増やしたい）
2．中立的（残高は維持・横ばい
3．消極的（残高を減らしたい 又は残高なし）

<図表６>取組み姿勢（アレンジ）



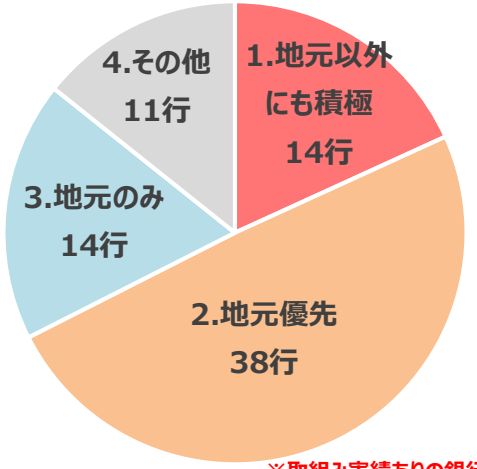
【選択肢】
1．積極的（今後も積極的に取り組んでいきたい）
2．中立的（良い案件があれば取り組んでいきたい）
3．消極的（現時点で取り組む予定はない）

<図表７>取組み姿勢（参加）



【選択肢】
1．積極的（今後も積極的に取り組んでいきたい）
2．中立的（良い案件があれば取り組んでいきたい）
3．消極的（現時点で取り組む予定はない）

<図表8>取組み地域



※取組み実績ありの銀行(77行)の回答

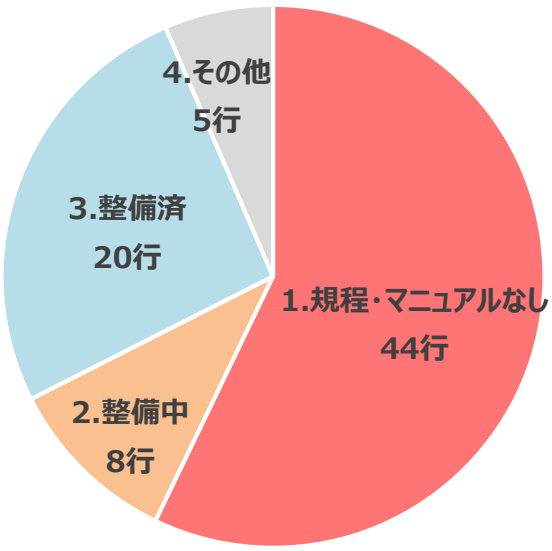
【選択肢】
1．地元以外の案件にも積極的に取り組む
2．地元以外も取り組むが、地元案件を優先
3．原則、地元の案件にしか取り組まない

Ⅲ 地域銀行アンケート結果③（リスク管理-1）

※図表１における取組み実績ありの銀行(77行)の回答

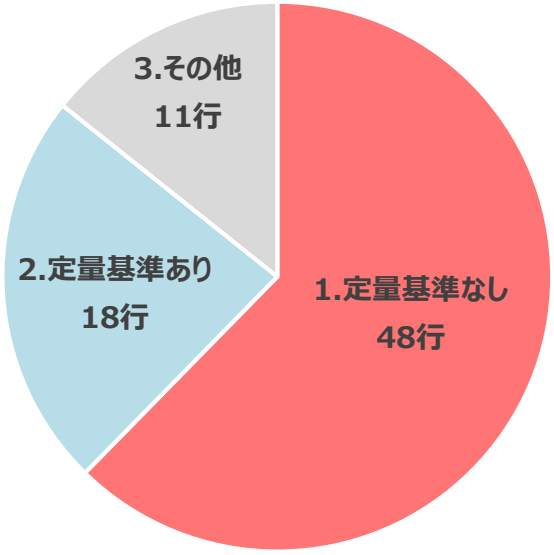
- LBOローンの取組み実績があると回答した77行のうち、44行はLBOローンに関する規程・マニュアルはないと回答した。残高100億円以上の33行のうち、7行が規程・マニュアルはないと回答した**<図表9>**。
- 48行はレバレッジ比率、のれん・純資産比率などの一般的なLBOローンの指標に関する定量的な採上基準を定めていないと回答した。残高100億円以上の33行のうち、13行が定めていないと回答した。その他と回答した11行のうち、2行は体制整備中と回答した**<図表10>**。
- 38行はLBO関連ポートフォリオを定期的に会議体等へ報告していないと回答した。残高100億円以上の33行のうち、8行が報告していないと回答した。その他と回答した11行のうち、4行は不定期で報告していると回答した**<図表11>**。

<図表9>規程・マニュアルの整備状況



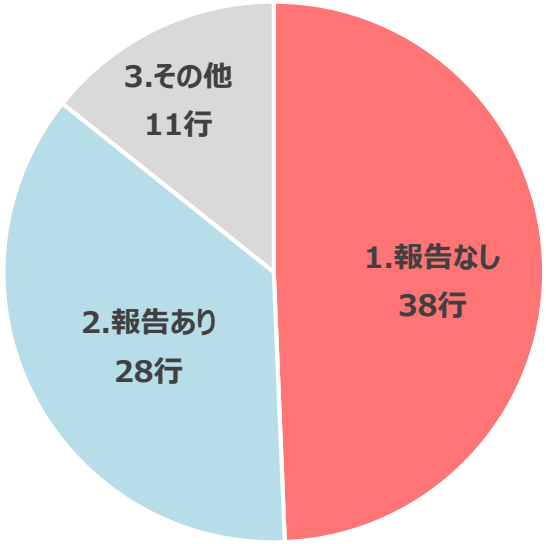
【選択肢】
1．規程・マニュアルはない
2．規程・マニュアルは整備中
3．規程・マニュアルは整備済

<図表10>新規採上基準



【選択肢】
1．定量的な採上基準はない
2．定量的な採上基準がある

<図表11>ポートフォリオ報告



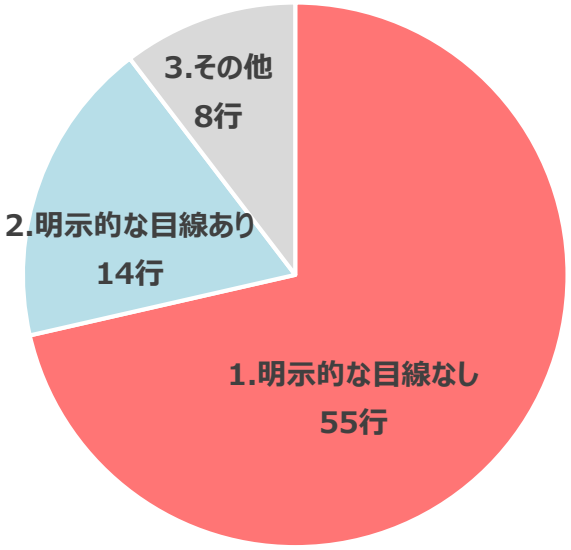
【選択肢】
1．報告等は実施していない
2．定期的に報告を実施

Ⅲ 地域銀行アンケート結果③（リスク管理-2）

※図表１における取組み実績ありの銀行(77行)の回答

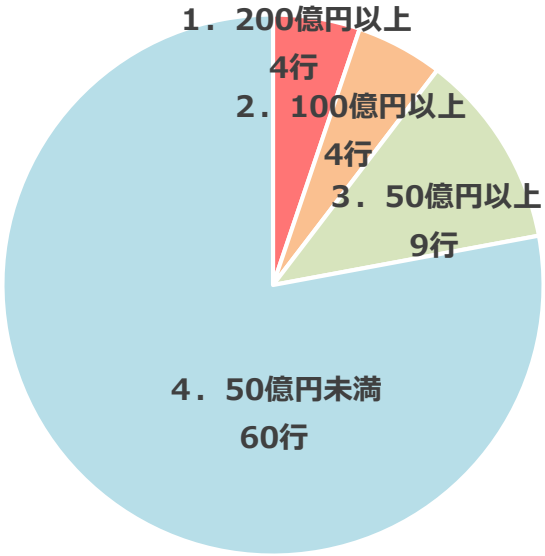
- LBOローンの取組み実績があると回答した77行のうち、55行はリスク・リターンに関する明示的な目線がないと回答した。その他と回答した8行のうち、1行はLBO単独でなく、ストラクチャード・ファイナンス全体で明示的な目線を設定している、1行は基準設定を検討中であると回答した**<図表12>**。
- 60行は1件当たりの引受金額(最大)は50億円未満と回答した。一方、4行は200億円超と回答した**<図表13>**。
- 50行は与信限度額基準(格付別与信限度額等)の範囲内でLBOローンに取組むと回答した。一方、10行は超過を許容していると回答した。その他と回答した17行のうち、9行はLBOローンに関する与信限度額基準がないと回答した**<図表14>**。

<図表12>リスク・リターン目線



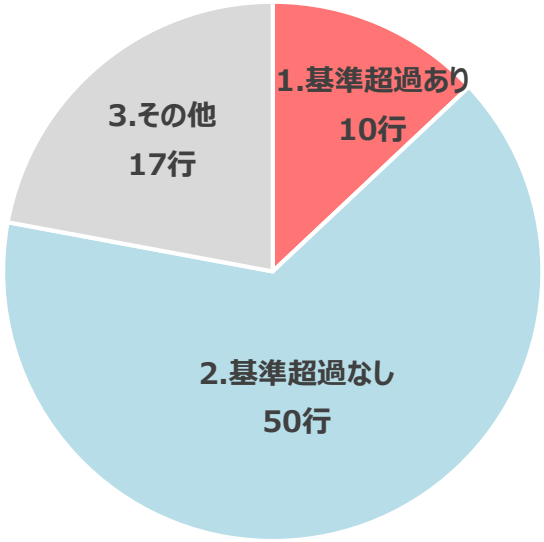
【選択肢】
1．明示的な目線はない
2．明示的な目線がある

<図表13>1件当たり引受金額(最大)



【選択肢】※採上時の引受額が最大の案件
1．200億円以上
2．100億円以上200億円未満
3．50億円以上100億円未満
4．50億円未満

<図表14>与信限度額基準の超過



【選択肢】
1．基準超過あり
2．基準超過なし

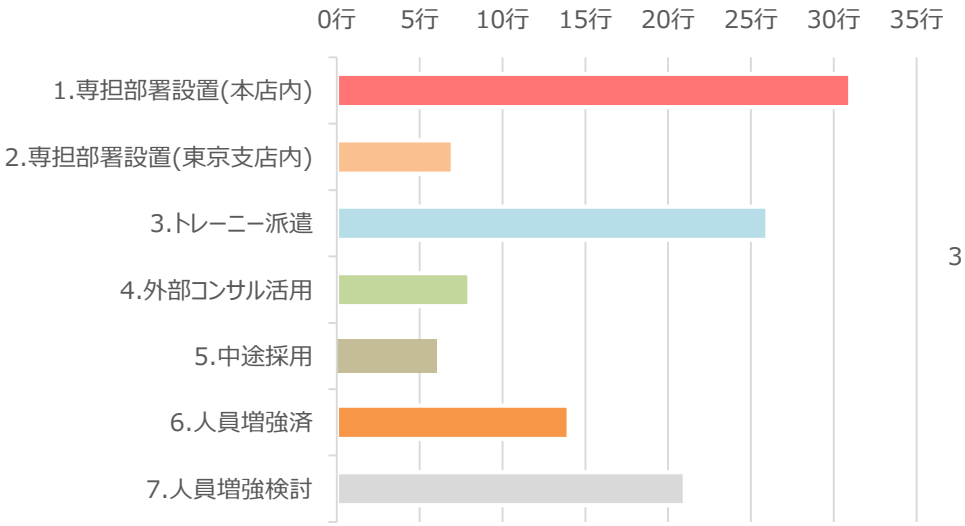
Ⅲ 地域銀行アンケート結果④（体制整備の状況）

※図表１における取組み実績ありの銀行(77行)の回答

■ LBOローンの取組み実績があると回答した77行のうち、38行はフロント部門に専担部署を設置していると回答した。また、26行は大手銀行等へのトレーニー派遣を通じて知見の習得に努めていると回答した**<図表15>**。

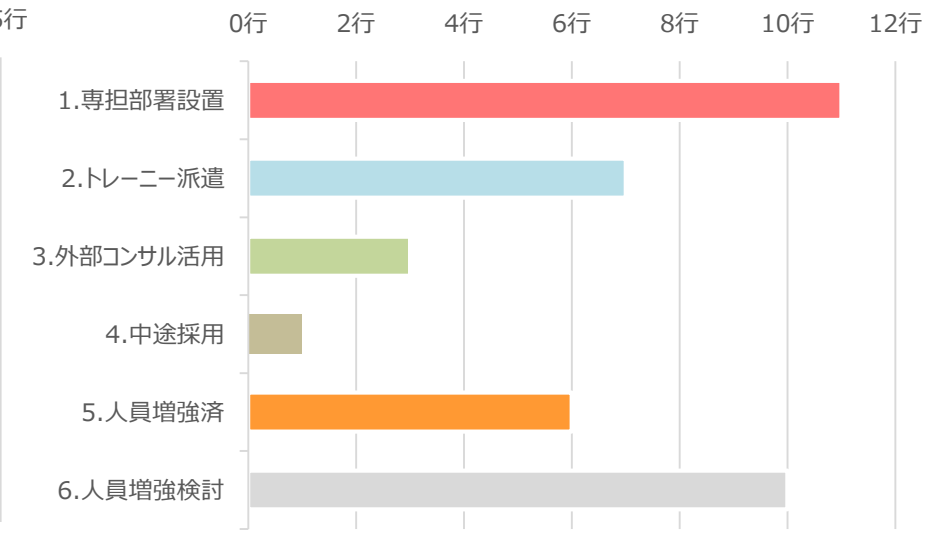
■ 11行は審査部門に専担部署を設置していると回答した。ただし、フロント部門と比較すると、具体的な取組みを実施している銀行は少数に留まった**<図表16>**。

<図表15>フロント部門の準備状況



【選択肢】※複数回答可
1．本店内に専担部署を作って取り組んでいる
2．東京支店に専担部署を作って取り組んでいる
3．他行にトレーニーを出して知見の習得に努めている
4．外部コンサルを活用して体制整備を進めている
5．経験のある中途採用者を採用している
6．人員の増強を行った
7．人員の増強を検討している

<図表16>審査部門の準備状況



【選択肢】※複数回答可
1．専担部署を作って取り組んでいる
2．他行にトレーニーを出して知見の習得に努めている
3．外部コンサルを活用して体制整備を進めている
4．経験のある中途採用者を採用している
5．人員の増強を行った
6．人員の増強を検討している

※自由記述での回答

項目	主な回答内容
①ビジネス戦略上のLBOローンの位置づけ	■ 事業承継ニーズに対するソリューションの一つ ■ 中期経営計画において重要な収益源の一つとして推進する注力分野 ■ 都市部マーケットにおける業容拡充の手段
②入口審査・期中管理・ポートフォリオ管理の手法 ※一般的な法人与信との相違点	【入口審査】 ■ チェックシート等を用いて検証(買収金額・事業計画の妥当性、出口の蓋然性、レバレッジ比率、のれんの評価、PEファンドの投資実績等) ■ 専門部署・チームにて対応 【期中管理】 ■ モニタリングシート等を用いて、月次等で管理(コベナンツ管理を含む) ■ PEファンドと定期的な情報交換 【ポートフォリオ管理】 ■ LBOローンポートフォリオを定期的に会議体へ報告 ※LBOローンの取組み実績があると回答した銀行において、一般的な法人与信と同じ扱いとの回答も複数あった

※自由記述での回答

項目	主な回答内容
③フロント業務における課題・問題意識	■ 人材の確保、専門性の向上※大半の銀行が回答した ■ 短い案件検討期間 ■ PEファンド、アレンジャー(メガバンク)とのリレーション強化 ■ 案件、情報へのアクセス ■ 審査・リスクリターン等の目線の確立 ■ 期中管理のノウハウ、業況悪化時のモニタリング ■ 行内連携(専担部署と営業店及び審査部との調整)　等
④審査業務における課題・問題意識	■ 人材の確保、専門性の向上 ■ 短い案件検討期間 ■ 参加案件における審査のための情報の制約 ■ 審査基準(のれんの評価を含む)等の体制の整備 ■ 与信限度額基準の整備 ■ 格付手法の整理 ■ プライシングの適正化 ■ アレンジ案件における引受後のシンジケーションが予測困難　等